

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月3日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12906

研究課題名(和文)多文化間ディスカッション授業におけるファシリテーション要素の研究

研究課題名(英文)Factors for Successful Multi-cultural Discussion in Class

研究代表者

斉木 麻利子(SAIKI, Mariko)

金沢大学・国際機構・教授

研究者番号：00195968

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：今日日本の教育機関に対しグローバル人材育成の期待が急速に高まっているが、そのような傾向の中で、特に、留学生との協働活動「多文化間ディスカッション」が授業内に盛んに導入されるようになってきた。この現状において、そのような授業を成功に導くための方法論の開発は必須である。本研究では、実践調査・分析により、ディスカッション参加者の役割の自己認識と相互認識、及び相づち等のソーシャルサポートのスキルが「多文化間ディスカッション」をファシリテートするための重要な要因であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「多文化間ディスカッション」という、グローバル人材予備軍のトレーニングを扱い、その成果を最大限に高めるための要素を求めたものである。グローバル人材育成は社会の要請を反映し、現在我が国の教育機関にとって最優先すべきタスクの一つであり、本研究はその意味において意義深い。さらに本研究結果は、単に我が国の教育機関の最重要課題であるグローバル人材育成に指針を提供することができるだけでなく、近い将来、校種をまたがるシームレスなグローバル人材育成の方法を確立することにも貢献できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In recent years, as expectation rapidly rises on Japanese educational institutions to produce global human resources of the future, more and more "Multi-cultural Discussion" activities or "Group Discussion" activities have been introduced in class. In this tendency, development of the method for their success is indispensable without question. In our research, we collected sets of data and analyzed them. We have found that understanding of the roles of discussion members as well as the skills for "social support" such as back-channeling during discussion are the important factors in order to facilitate successful "Multi-cultural Discussion."

研究分野：理論言語学, 外国語教育

キーワード：多文化間ディスカッション グループ・ディスカッション

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日我が国では、グローバル人材育成教育に益々拍車がかかっている。また、大学教育の質的向上のために政府によりアクティブ・ラーニング(能動的学習)の手法が明示的に推奨されて以来(『中央教育審議会報告書』2012年8月28日)、その手法の一つであるグループ・ディスカッション活動は、以前にも増して注目されるようになった。この活動はまさに、近い将来の「グローバル人材」を育成するための効果的なトレーニング方法として認知されたということである。

(2) しかしながら、この活動には、使用言語の種類や参加者の心理等の条件により、多様なアウトカムが予測される。同時に、教育者の立場からは、いかなる条件下でこれを学生・生徒の教育の場に取り入れたとしても、参加者の達成度は常に保証されるものでなければならない。それではこの活動を成功させるためには何が必要なのか?我々は数々の文献をあたったが、この活動に関しては、「実践報告」「活動報告」といった類の報告書は頻りに目にするものの、その本質を見極め、必ず成功に導くための方法論について論じ、具体的な策を提案するまでに至った研究は、見つけることができない。

2. 研究の目的

今日日本の教育機関に対し、グローバル人材育成の期待が急速に高まっているが、そのような傾向の中で、特に、多言語・多文化理解能力に秀でた留学生との協働活動、「多文化間ディスカッション」が、大学や高等学校の授業内に盛んに導入されるようになってきた。この現状において、「多文化間ディスカッション」を成功に導くための方法論の開発が教育者にとって必須であることは明白であり、本研究はまさにその一環として実施するものである。本研究は、実践調査・分析により、「多文化間ディスカッション」をファシリテートする(円滑化し最大限の効果を引き出す)条件を明らかにし、将来グローバル人材として活躍する若者に必要な「コミュニケーション能力」の側面を見極めようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者と研究分担者は、それぞれ、本研究期間である平成27年度~平成30年度を通し、文献・その他の資料を収集することにより、「多文化間ディスカッション」に関する先行研究を調査した。さらに、研修会・研究会に参加することにより、ディスカッションの円滑化要素について検討した。

(2) 平成28年度からは、主に、研究代表者と研究分担者の所属研究機関である金沢大学の学生によるグループ・ディスカッションの音声・画像データを収集し分析した。その際、ミーティングレコーダー(KING JIM製 製品型番MR360)を使用し、音声は相づちも含めてすべて文字に起こした。

4. 研究成果

(1) 本研究で求められた「多文化間ディスカッション」の主要要素は以下の通りである。

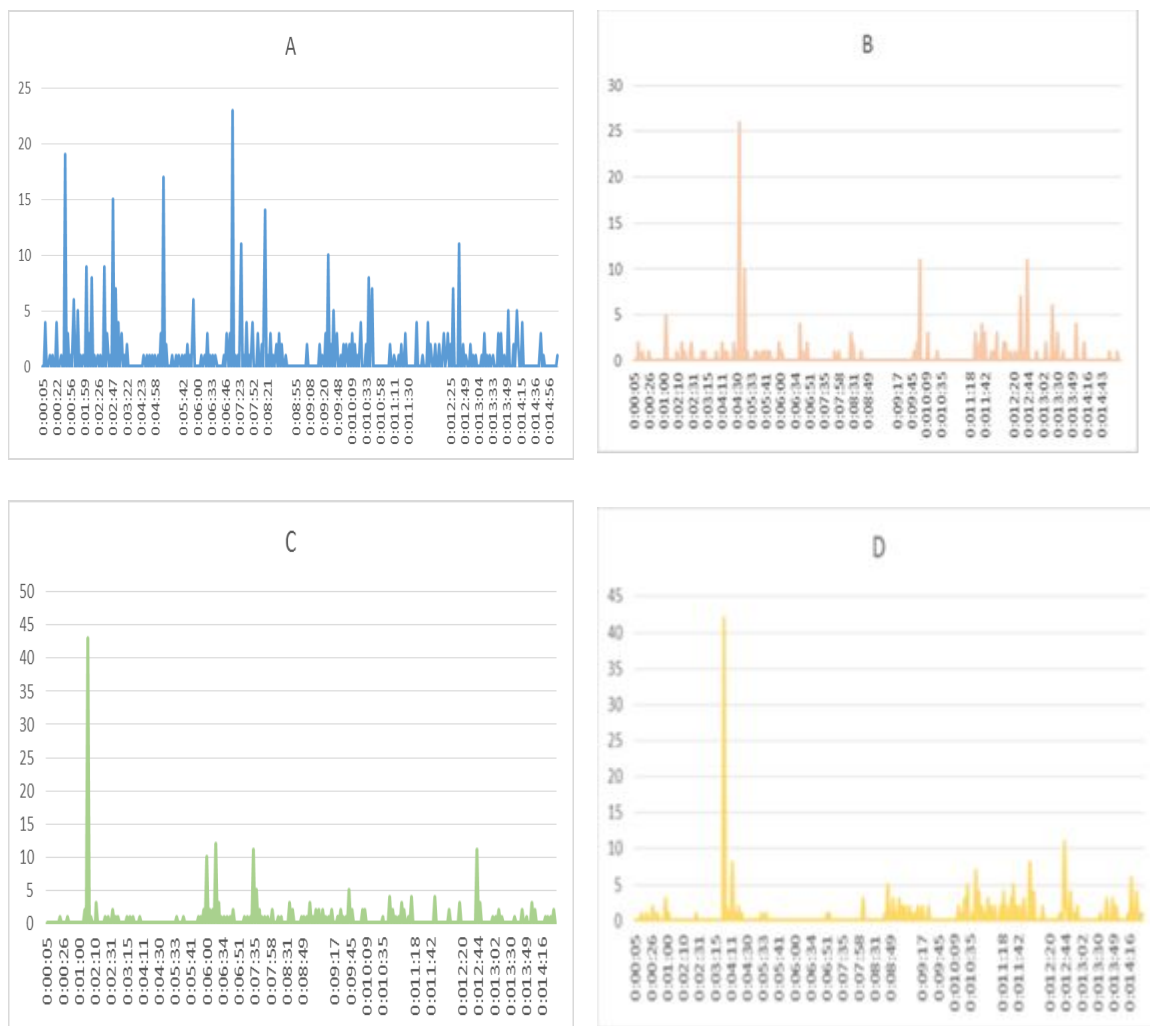
ディスカッションを行うグループにおいて各メンバーが担う役割(「司会(舵取り役)」「書記」「タイムキーパー」「発言者」「(ディスカッションの結論の)発表者」等)の自己認識とメンバー間の相互認識が重要なファシリテーション要素である。

グループでの役割に応じた適切な発話や態度、ソーシャルサポートとしてのジェスチャーや表情・相槌も、ディスカッションに相乗効果をもたらす大切な要素である。

(2) 本研究で扱ったデータのうち、最も注目すべきなのは、平成28年1月6日(金)に収集した4名の国内学生によるグループ・ディスカッションのデータである。このデータは、研究代表者と研究分担者の所属研究機関にて、「トビタテ留学 JAPAN 日本代表プログラム」第6期奨学生選考で、第一次審査(書類審査)に合格した学生を対象とし、第二次審査の一部であるグループ・ディスカッション審査に向けての指導^(注1)を行った際に収集したものであるが、データ内のディスカッション参加学生4名の全員が、後に第二次審査に合格し当該奨学金を授与されている^(注1)。よってこのデータを分析することにより、我が国が求める「グローバル人材の卵」の資質を抽出できると考えたものであるが、分析の結果、上記(1)に記したと要素が特に顕著に現れていることがわかった。^(注2)

(注1) まず大学側が学生にテーマを与え、学生はそれに関して2分間で各自の考えをまとめる。その後15分間のグループ・ディスカッションを行い、続いてグループの代表者が3分間でディスカッションの結論を発表し、評価者(教員、大学スタッフ、過去のトビタテ奨学金受給生)からフィードバックを得る、という手順で行った。

(注2)このデータの参加学生4名をA,B,C,Dとすると、各自の役割と発言量(持ち時間)は、それぞれ、A(司会,407秒=6分47秒),B(書記,171秒=2分51秒),C(タイムキーパー,242秒=4分2秒),D(228秒=3分48秒)。また、以下の4つのグラフは、横軸に時間の経過(横軸,単位「時間:分:秒」)に沿った、A,B,C,D各自の発言量(縦軸,単位「秒」)を表したものである。



(3) 本研究最終年度である平成30年度には、“OJAE セミナー 2019「OJAE で測る日本語コミュニケーション能力」(3月3日,名城大学,OJAE=Oral Japanese Assessment Europe,ヨーロッパにおける日本語教育の充実および発展のために,その評価法を検討するもの)”に参加した。このセミナーと本研究は、コミュニケーション能力の展開という点において、方向性を共有しており、本研究が示唆するコミュニケーション能力の評価と日本語学習者のコミュニケーション能力の評価の共通性についても確認することができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1 件)

Saiki, Mariko (2017) “Qualities of Global Talent: Communication Skills of TOBITATE! Grantees,” in *Abstract Proceedings of Scholar Summit 2017* (p.264), Universitas Indonesia, Depok, Indonesia.

[学会発表](計 1 件)

Saiki, Mariko (2017) “Qualities of Global Talent: Communication Skills of TOBITATE! Grantees,” presented at the Scholar Summit 2017 “Shaping the Better World”, Universitas Indonesia, Depok, Indonesia (October 11, 2017).

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：尾島 恭子

ローマ字氏名：OJIMA, Kyoko

所属研究機関名：金沢大学

部局名：学校教育系

職名：教授

研究者番号(8桁): 20293326

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。